

血液内科63 ベスポンサ(HSCTなし)

☆適応疾患名:CD22陽性急性リンパ性白血病

			← 1コース(*) →		
【1コース】			投与スケジュール		
薬剤	標準投与量	投与方法	1week	2week	3week
ベスポンサ	0.8mg/m ² (d1)	点滴静注	day1		
	0.5mg/m ² (d8,d15)	点滴静注		day8	day15

*寛解が得られた場合は、28日間まで延長可。

			← 1コース →			
【2コース以降 (※非寛解)】			投与スケジュール			
	標準投与量	投与方法	1week	2week	3week	4week
ベスポンサ	0.8mg/m ² (d1)	点滴静注	day1			
	0.5mg/m ² (d8,d15)	点滴静注		day8	day15	

			← 1コース →			
【2コース以降 (※寛解)】			投与スケジュール			
	標準投与量	投与方法	1week	2week	3week	4week
ベスポンサ	0.5mg/m ² (d1,d8,d15)	点滴静注	day1	day8	day15	

ベスポンサ(イノツズマブ オゾガマイシン):ベスポンサ点滴静注用1mg

プレメディケーション:ベスポンサ投与30分前に解熱鎮痛薬(カロナール等)、
抗ヒスタミン薬(レスタミン錠等)を内服

【1コース目】

	day1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
ベスポンサ	●							●						

15	16	17	18	19	20	21
●						

【2コース目以降】

	day1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
ベスポンサ	●							●						

15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
●													

※6コースまで繰り返し可。

	本管	側管	内服 ・カロナール500mg 1T ・レスタミンコーワ 5T
30分	生理食塩液 100mL	グラニセトロン3mg 1P デキサート6.6mg 1V	
1時間		ベスポンサ点滴静注用1mg 生理食塩液「ヒカリ」50mL (投与速度 50mL/h)	

【投与時の注意点】

- ・室温にて、50mL/h の速度で、1 時間かけて点滴静注する。
- ・遮光しながら投与する。
- ・混注後 8 時間以内に投与する。
- ・希釈液が冷所保存されている場合は、投与 1 時間前に室温に戻しておく。
- ・他剤とは混注しない。

【調製時の注意点】

- ・溶解は注射用水 4mL で行う。
- ・遮光しながら調製する。
- ・振とうせず、ゆっくり回転させながら混和する。
- ・総液量が 50mL となるように希釈する。
- ・溶解から希釈は 4 時間以内に行う。
- ・溶解後、速やかに使用できない場合は、2～8℃で遮光保存し、4 時間以内に使用する。

【コース開始時の投与基準(2 コース目以降の day1)】

項目	投与基準	基準外のときの処置
① 好中球	≥ 1000	1000 以上になるまで休薬
② 血小板	≥ 50000	50000 以上になるまで休薬
* ①、②いずれしか満たさないときは、以下 a)b)いずれかの基準を満たすまで休薬 a)好中球、血小板数がいずれも本剤による治療開始前まで回復 b)基準①②いずれも満たす		

※基準判断に用いる血小板数は、輸血の影響を受けない値を用いること

【本剤投与日に満たすべき基準】

項目	投与基準	基準外のときの処置
③ 総ビリルビン	≤ 1.65 (mg/dL)	④ または④の基準を満たすまで休薬する
⑤ AST,ALT	≤ 87.5 (IU/L)	